



新理事長 西村 修氏就任
 西村 修新理事長は現在、東北大学大学院工学研究科教授で水質についての研究を専門とされています。伊豆沼・内沼自然再生協議会長を発足時より務めてこられました。新たな体制で伊豆沼・内沼の自然環境の保全・活用に関わる活動を推し進めます。“みなさま、引き続きご支援のほどよろしくお祈いします。”

Vol.167
 令和6年度5月号

新たな水生植物園が開園

水生植物園はR3年度より、伊豆沼の生き物と安全にふれあうことができるよう、再整備を行っています。昨年度は、湿地を彩る植物や水草の復元活動について解説する看板を設置しました。この看板は、QRコードを読み込むことで、より詳細な説明を見られるように工夫されています。これからの水生植物園は、多種多様な草花が次々に見頃を迎えます。皆様のご来園をお待ちしています。

池を埋め尽くすミズアオイ
見頃: 8月中旬～9月中旬

凡例

- 観察用棧橋 (Blue square)
- 散策路 (Green line)
- ベンチ (Red square)
- ドック (Light blue square)
- ①～⑱ (Circle with number)
- 池番号

湿地を彩る草花について説明する看板を設置しました

水路に咲くカキツバタ
見頃: 5月下旬～6月上旬



秋を彩るサクラタデ
見頃: 8月中旬～10月中旬



食虫植物タヌキモの花
見頃: 7月下旬～9月上旬



水面を彩るアサザ
見頃: 5月下旬～9月上旬



水草の復元活動について説明する看板を設置しました

電気ショッカーボートによる外来魚駆除を実施します。

電気ショッカーボートによる外来魚（オオクチバス・ブルーギル等）駆除を4月下旬から6月上旬まで、主に火曜日、金曜日に実施します。駆除活動の成果としては、外来魚が減少するに従い、伊豆沼・内沼の在来種であるモツゴやタモロコ、コイ、フナ、エビなどが徐々に回復して来ており、希少なゼニタナゴも確実に増えていることが確認されています。伊豆沼・内沼の外来魚駆除活動を継続してまいりますのでご協力をお願いします。



電気ショッカーボートによる駆除風景

“バス・バスターズ”今年も活動します。

昨年のバス・バスターズ活動風景



長年にわたり皆様のご協力をいただいておりますバス・バスターズの活動により、伊豆沼・内沼のオオクチバスの個体数は、活動を始めた頃の10分の1程度に減少しています。

しかし、より安定した状態にするには油断することなく継続した活動が必要であり、今年もバス・バスターズ活動を行います。

皆様のご参加をお待ちしています。詳細は下記URLを参照下さい。

http://izunuma.org/2_3.html

ゼニタナゴは餌をめぐる競争でも追い詰められている。

ゼニタナゴ（図1）は、開発や外来魚などによって、ため池に追い詰められてきた希少魚です。ため池は一見ゼニタナゴにとって安全な環境に見えますが、外来のタナゴ類が侵入した池ではゼニタナゴだけが姿を消してきました。

調査したところ、ゼニタナゴと外来のタナゴ類の食性が非常に似ていることが分かりました（図2）。食性が似ているため、小さなため池では食物をめぐる競争が生じます。ゼニタナゴは外来のタナゴ類よりも寿命が短く、5月から9月の短期間に急速に成長して産卵するため、この時期に食物が不足すると卵をほとんど産めなくなってしまい、姿を消してしまうようです。ゼニタナゴの本来の生息地は、伊豆沼・内沼のような広い水域であり、その生育環境の保全に努めたいと思います。この論文は魚類学の専門誌に掲載されました。

魚類学の専門誌「Environmental Biology of Fishes」へのQRコード（右記）

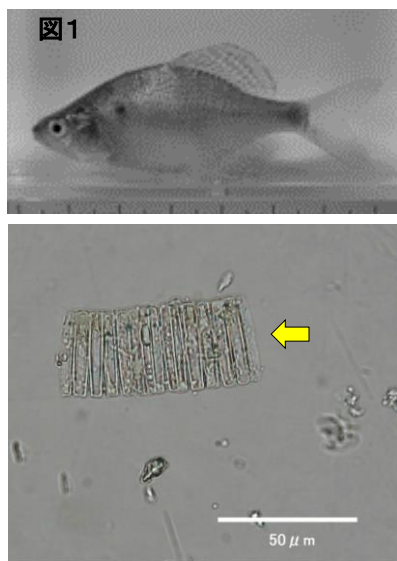
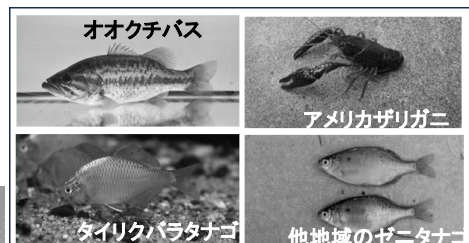


図2: タナゴがよく食べる底生珪藻(黄色矢印)



新職員紹介



業務補助員 丹野 浩

故郷の自然環境保全に携われることを嬉しく思っております。よろしくお祈りします。

